

あすなろ療育福祉センター患者調査結果

○整形外科・・・・・・・・・・P1～4

○リハビリテーション科・・・P5～8

○小児科・・・・・・・・・・P9～12

令和6年7月31日

青森県健康医療福祉部

障がい福祉課

あすなろ療育福祉センター患者調査結果

I 調査の概要

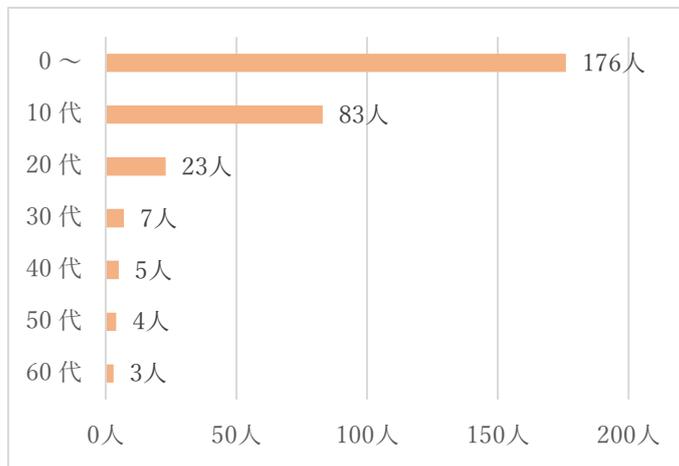
あすなろ療育福祉センター（以下、「あすなろセンター」という。）の抱えている課題のうち、患者の支援ニーズの多様化について把握するため、令和6年の1/1～1/31の1か月間で整形外科、リハビリテーション科、小児科を受診した患者について調査を実施した。

II 調査結果

1 整形外科（受診患者数 301 人）

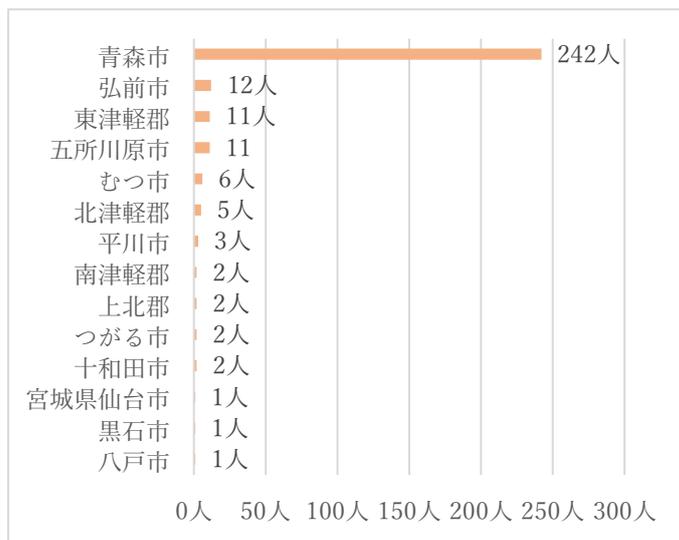
(1) 患者の属性について

【年代別】



- ・301人中、10歳未満が176人と最も多く、続いて10代が83人であった。この2世代で全体の86%を占めている。
- ・性別は男性148人、女性153人。

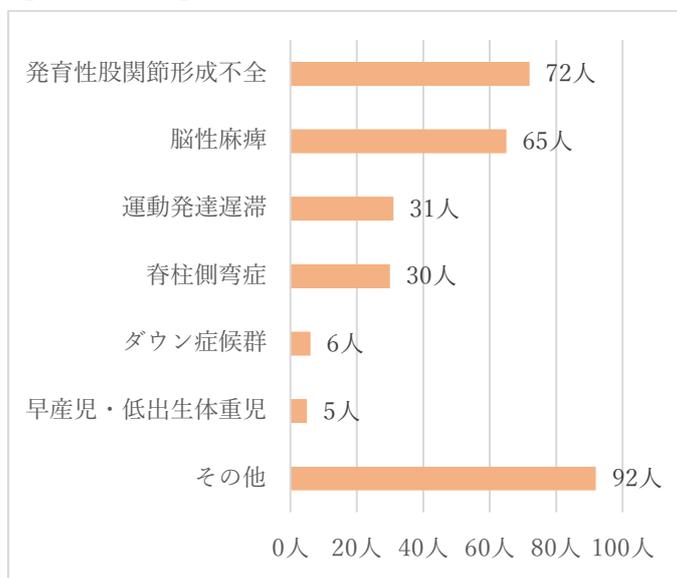
【居住地別】



- ・青森市が242人と多数を占めるが、それ以外も59人となり市外からの需要も一定程度存在する。
- ・全301人のうち、第一養護学校在籍者は22人と全体の7.3%程度となる。

(2) 患者の病態について

【主たる病名】



・発育性股関節形成不全が 72 人(全体の約 24%)と最も多い。

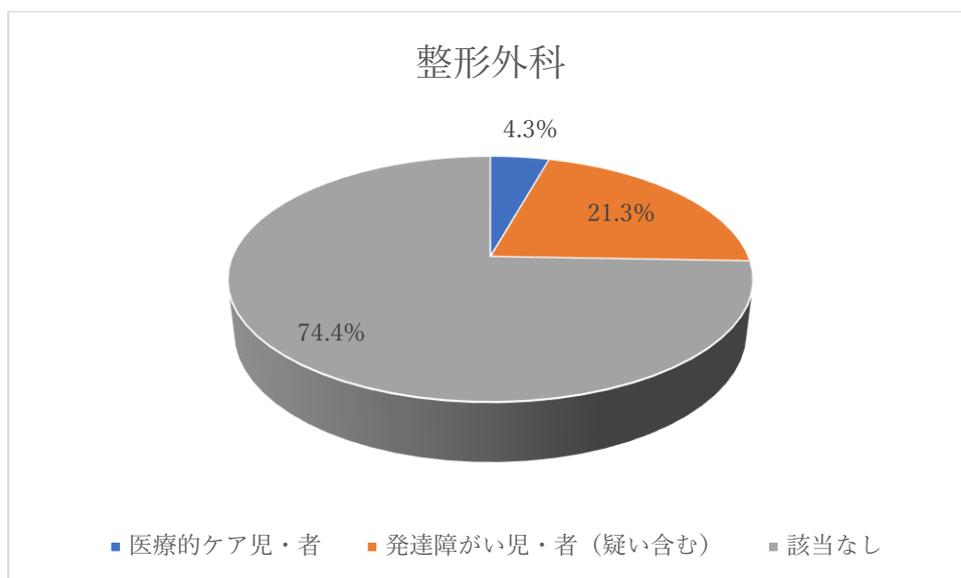
・続いて脳性麻痺が 65 人(同、約 22%)となる。

【医療的ケア児・者の割合】

・全 301 人中、何らかの医療的ケアを要する者は 13 人(全体の約 4.3%)。

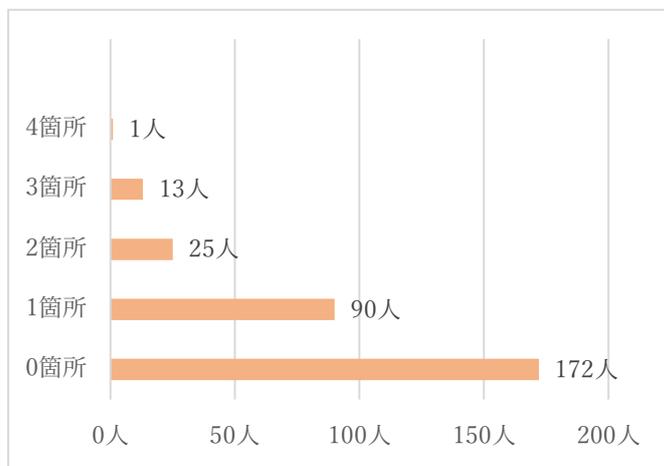
【発達障がい児・者(疑い含む)の割合】

・全 301 人中、発達障がいの確定診断を受けている又は同障がいが疑われる者は 64 人(全体の約 21.3%)。



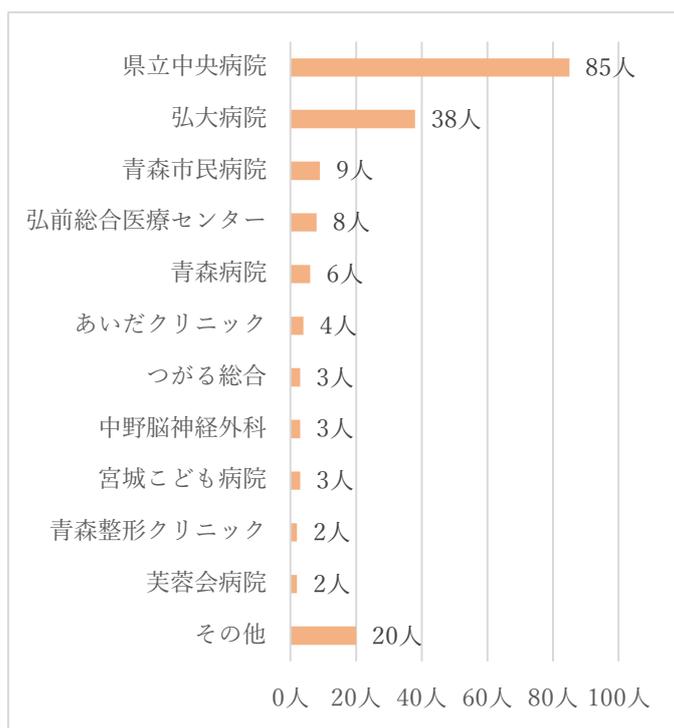
(3) 患者の他の医療機関への通院について

【通院箇所数】



- ・ 1箇所以上、他の医療機関へ通院している人数は129人。
- ・ 最大で4箇所の医療機関へ通院している患者も存在する。

【通院先】



- ・ 1箇所以上他院に通院している129人について、通院先を延べ人数で換算した183人を母数とした。
- ・ 県立中央病院が85人（全体の46.4%）と最も多く、続いて弘前大学医学部附属病院が38人（同20.7%）となる。

【通院先の診療科】



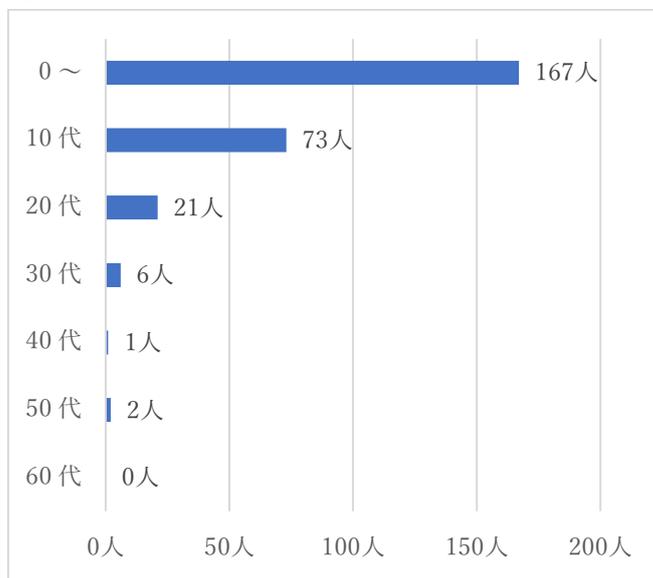
・母数は上記「通院先」の183人のうち診療科が判明している164人。

・小児科が60人(36.6%)、整形外科が24人(14.6%)と上位を占めている。

2 リハビリテーション科（受診患者数 270 人）

（1）患者の属性について

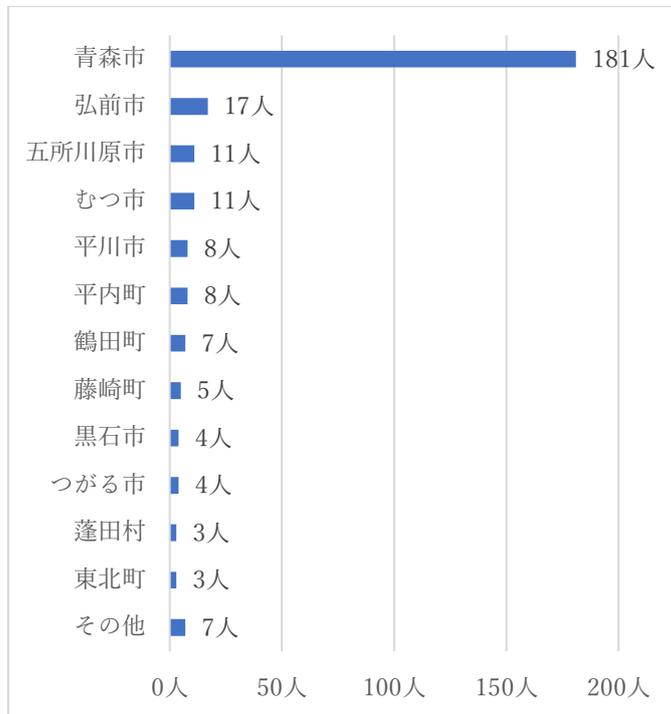
【年代別】



・270 人中、10 歳未満が 167 人と最も多く、続いて 10 代が 73 人であった。この 2 世代で全体の 89% を占めている。

・性別は男性 149 人、女性 121 人。

【居住地別】

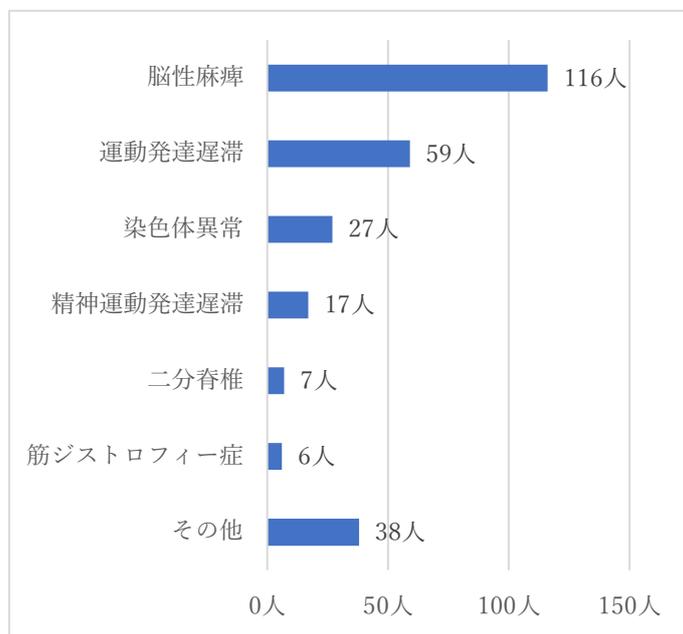


・青森市が 181 人と多数を占めるが、それ以外も 69 人となり市外からの需要も一定程度存在する。

・全 270 人のうち、第一養護学校在籍者は 27 人と全体の 1 割程度となる。

(2) 患者の病態について

【主たる病名】



・脳性麻痺が116人(全体の約43%)と最も多い。

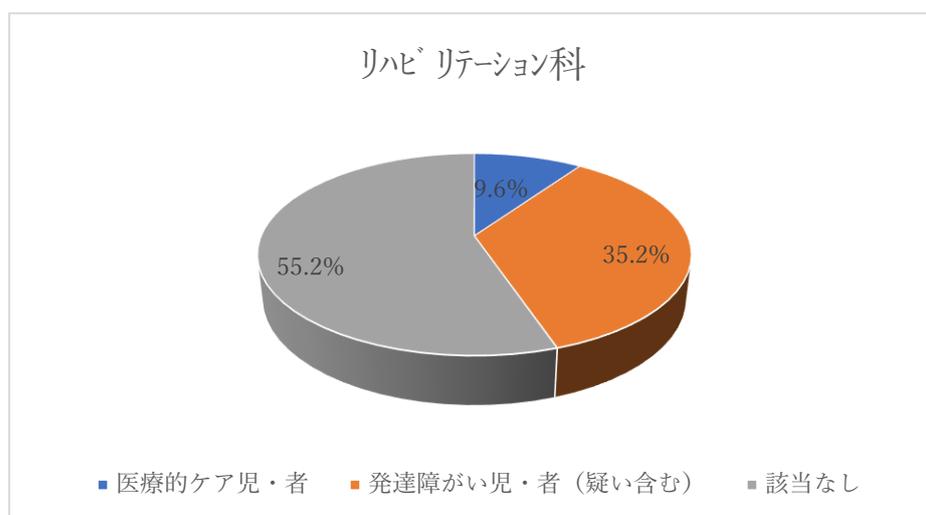
・続いて運動発達遅滞が59人(同、約22%)となる。

【医療的ケア児・者の割合】

・全270人中、何らかの医療的ケアを要する者は26人(全体の約9.6%)。

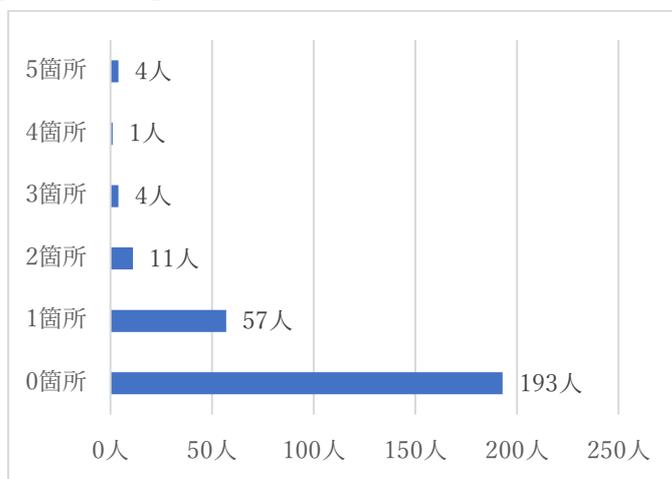
【発達障がい児・者(疑い含む)の割合】

・全270人中、発達障がいの確定診断を受けている又は同障がいが疑われる者は95人(全体の約35.2%)。



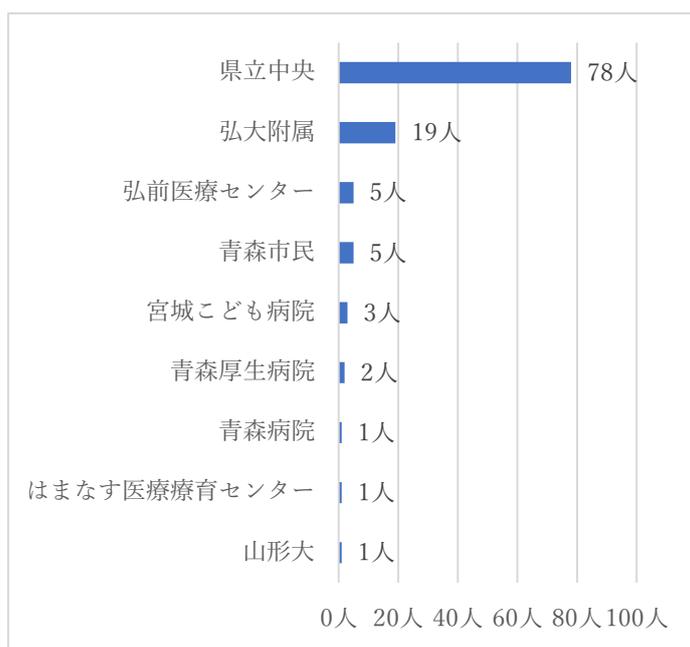
(3) 患者の他の医療機関への通院について

【通院箇所数】



- ・ 1箇所以上、他の医療機関へ通院している人数は77人。
- ・ 最大で5箇所の医療機関へ通院している患者も存在する。

【通院先】



- ・ 1箇所以上他院に通院している77人について、通院先を延べ人数で換算した115人を母数とした。
- ・ 県立中央病院が78人（全体の67.8%）と最も多く、続いて弘前大学医学部附属病院が19人（同16.5%）となる。

【通院先の診療科】



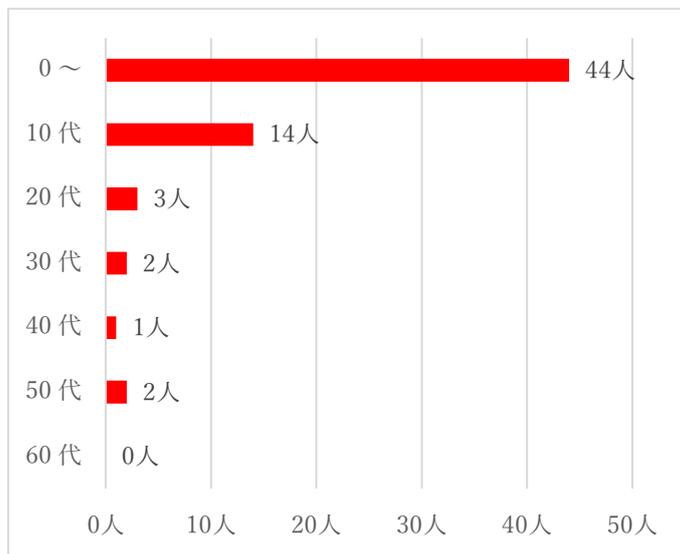
・母数は上記「通院先」の117人のうち診療科が判明している109人。

・県立中央病院の新生児科と成育科が上位を占めているほか、他診療科も含め、同院との関係は深い。

3 小児科（受診患者数 66 人）

(1) 患者の属性について

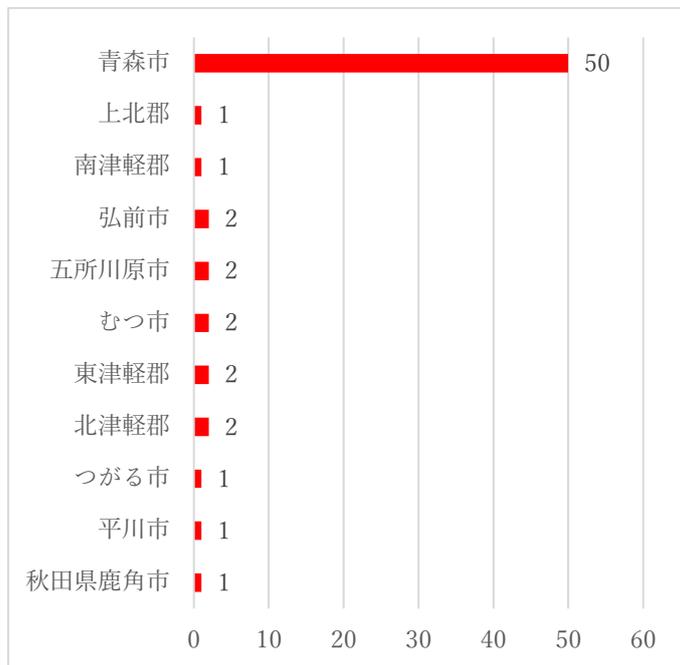
【年代別】



・66人中、10歳未満が44人と最も多く、続いて10代が14人であった。この2世代で全体の88%を占めている。

・性別は男性36人、女性30人。

【居住地別】

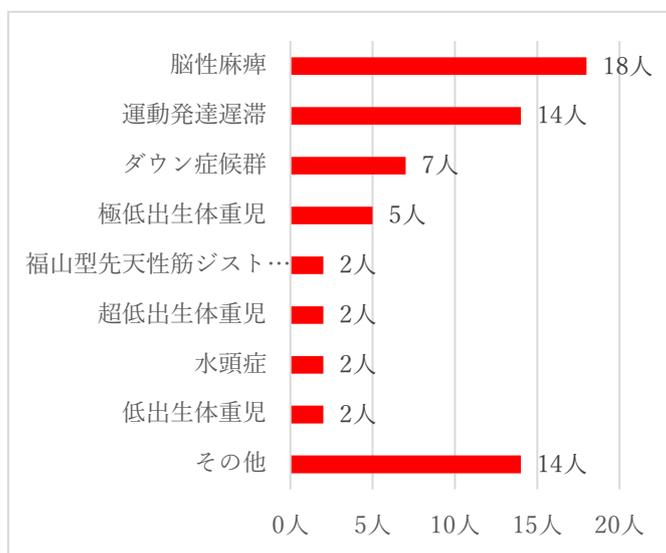


・青森市が50人と多数を占める。

・全66人のうち、第一養護学校在籍者は4人と全体の6%程度となる。

(2) 患者の病態について

【主たる病名】



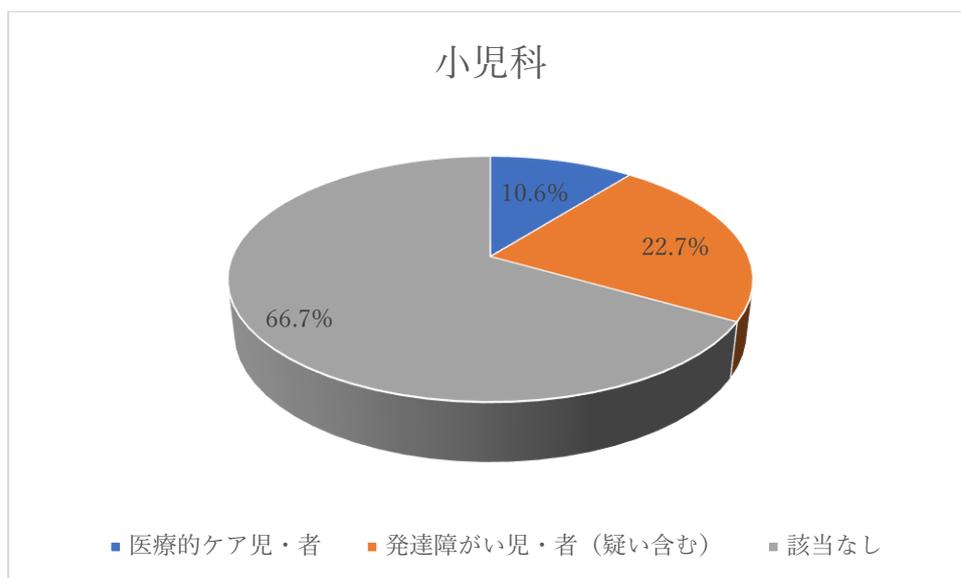
- ・脳性麻痺が18人（全体の約27%）と最も多い。
- ・続いて運動性発達遅滞が14人（同、約21%）となる。

【医療的ケア児・者の割合】

・全66人中、何らかの医療的ケアを要する者は7人（全体の約10.6%）。

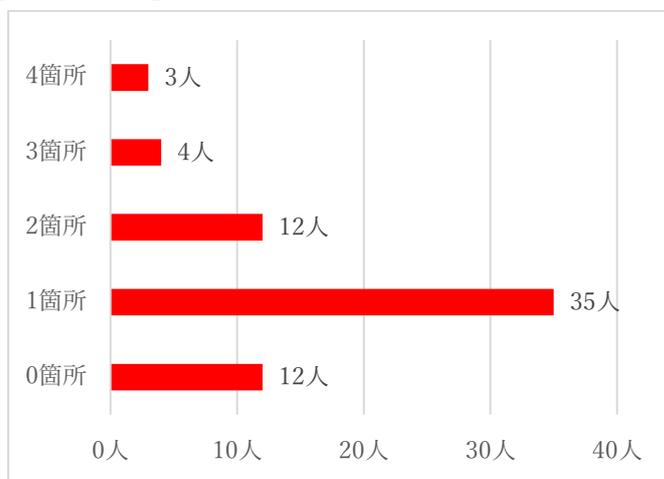
【発達障がい児・者（疑い含む）の割合】

・全66人中、発達障がいの確定診断を受けている又は同障がいが疑われる者は15人（全体の約22.7%）。



(3) 患者の他の医療機関への通院について

【通院箇所数】



・ 1箇所以上、他の医療機関へ通院している人数は54人。

・ 最大で4箇所の医療機関へ通院している患者も存在する。

【通院先】

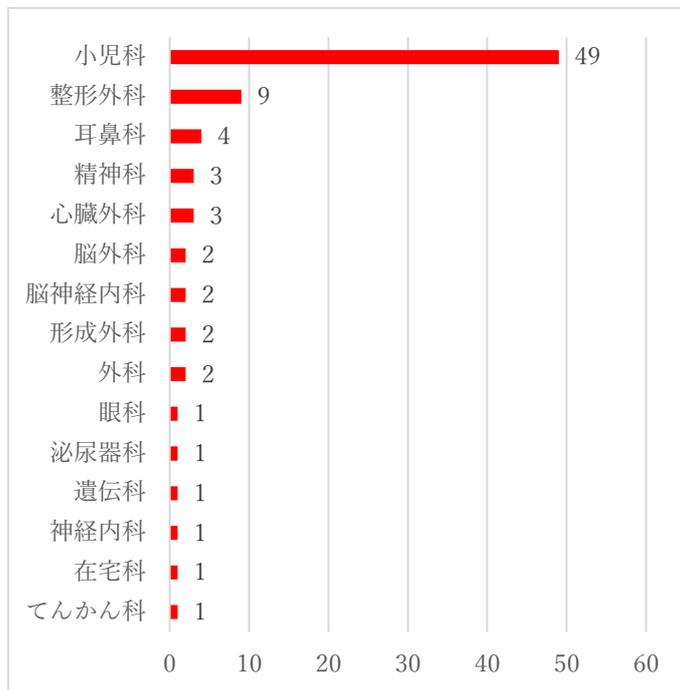


・ 1箇所以上他院に通院している54人について、通院先を延べ人数で換算した83人を母数とした。

・ 県立中央病院が39人(全体の46.9%)と最も多く、続いて弘前大学医学部附属病院が17人(同20.5%)となる。

・ 他県の医療機関の受診者が9人(同10.8%)となっている。

【通院先の診療科】



・母数は上記「通院先」の 83 人のうち診療科が判明している 82 人。

・県立中央病院の小児科が全体の 60% を占めているほか、他診療科も含め、同院との関係は深い。